

隨泉寺寺報

平成17年(2005年)5月号 第417号

082-892-0217 <http://tetunari@ms1.megaegg.ne.jp>

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺

開基400年記念法要

帰敬式 御導師 西本願寺 会行事

常楽寺住職 今小路覚真師

記念講演 バイマールヤンジン

講題 「チベットからのお話し」

隨泉寺開基400年法要



隨泉寺は古文書に寄れば慶長9年(1604年)に開基したといわれています。過去帳の一番古いものの中に元和2年(1616年)1月7日僧惠閑往生とありますから、だいたい符合しています。400年前は何と関が原の戦いの頃です。戦国時代から徳川時代に移行する頃で、このあたりでも戦いは珍しくない頃でしょう。真言宗から改宗されたといわれていますが、戦争の続く時代で死を目の前にして、真実の救いを求められたのも納得が出来ます。

浄土真宗のお寺は誰か一人の力で建立されたということではありません。おそらくその当時の民衆が【阿弥陀様の本願】より私が救われるものはないと確信して、お念仏の道場を作ろうと立ち上がってくださったのでしょう。

5月の法座予定

- 5月 1日……………掃除 出口宮原
- 5月 14日昼席午後1時より……………隨泉寺開基400年記念法要
- 5月 14日午後3時より……………帰敬式
- 5月 15日朝席午前10時より……………隨泉寺開基400年記念法要・初参式
- 5月 15日昼席午後1時より……………開基記念法要・バイマールヤンジン講演
- 6月 2日午後6時より……………門信徒会本部役員会
- 6月 12日午前8時半より……………掃除 荒野

バイマールヤンジン

チベット出身。名前はチベット語ではペマヤンジェ。『ハスの花にのった音楽の神様』の意味。7歳の時からチベット民謡と舞踊を始める。中国国立四川音楽大学声楽部でチベット人初の本科生として西洋オペラを専攻。卒業後同校専任講師に就任。中国各地でコンサートにて出演。

1994年来日後、広島アジア大会を初め、韓国ソウル済州島での音楽祭、APEC大阪大会、阪神淡路大震災救援演奏会、障害者チャリティコンサート等に参加し、99年夏演も果たす。また、日本でただ一人のチベット人歌手チベットの文化、習慣を紹介するため、積極的に小・中・高校や色々な国際イベント、シンポジウムでも講演を行い、これらの模様はテレビ・ラジオ・新聞でも大きく取り上げられ98年3月にはNHKで特集番組も放送された。

現在は教育を受ける機会が少ないチベットの遊牧民の為、小学校を建てようと日本全国で講演会、コンサート活動を行っている。

わたしの夢

チベットの両親は遊牧民でした。草原では学校がないところが多く、母も学校に通えなかった為、今も字が読めません。手紙を書けないのはもちろん体の体調が悪くて病院に行っても渡された薬の飲み方も読めません。その苦い経験の中で、母がもっとも衝撃を受けた事がありました。ある日、母は父と一緒に、チベットの隣の四川省に行きました。たまたま父がいない時に公衆トイレに行ったのですが、男・女と書いてる字が読めず、男便所に入りひどく罵られたのです。身体がぶるぶる震えるほど悔しくて悔しくて仕方ありませんでした。字が読めないための辛い思いはたくさんあり、それだけに『自分がどんな苦勞をしても、子供達は学校に行かせる』と決心したのです。大学までだしてもらった私は本当に幸せです。教育を受けたお陰で私の知識、視野は広がりました。私は国立四川音楽大学オペラを学びました。『いつかオペラで世界の舞台に立ちたい』というのが、私の夢でした。遊牧民の生活は朝晩がとても忙しく、一家でヤク、ヤギ何百頭もの世話するため、子供たち達も総動員して手伝わないといけません。日本ではどんなに複雑な駅でも案内板を見れば自分の目的地に迷わずたどり着くことができます。レストランでもメニューさえ見れば、自分の好きなものを選べます。チベットの社会がここまでになれるのはいつのことでしょう。もちろん私一人の力ではどうすることもできないかもしれませんが、でもその明るい将来のため、日本の皆様に応援していただきながら、私はひとりのチベット人として一生かけて頑張っていきたいのです。



心と心のふれあい いのちといのちの 出会いを粗末にしている私たち

カレンダー5月号 東井 義雄

一昨年、春の遠足に、私は、五年生の子どもについていきました。妙見山という山の麓の日光院という古いお寺の境内で、お昼にさせてもらったのですが、子どもたちが弁当の包みをほどいたのを見て廻りながら、私は、悲しい思いにとりつかれてしまいました。あちらにも、こちらにも、町のおすし屋さんで買った巻ずしを待たせてもらっている子がいるのです。

子どもたちは、毎日、学校の給食をたべているのです。遠足の弁当ぐらい、いくら忙しくても、めんどうでも、お母さんが、心をこめてつくってやってほしいな、と、思いました。

間もなく六年生の修学旅行が行なわれましたが、旅行の計画を見ると、一食、弁当持参ということになっていました。そこで、私は、お母さんたちに集まってもらい、おねがいしました。

「今度の修学旅行の弁当、もう巻ずしはやめにしてください。おかあさんたちが忙しいのは、よく知っています。でも、子どもにとっては一生の思い出になる、たいせつな修学旅行です。いつもより早く起きて、ご飯をたいてしっかり性根を入れて、ギューツと握ったおにぎりを待たせてください。そして、忙しいのは、よく知っているつもりですが、そのおにぎりの、ひとつひとつに、どんな心をこめてくださったか、それを、手紙に書いてつけておいてください」と頼んだのです。



きて、塚口のグンゼの工場で、お昼にさせてもらったのですが、子どもたちが弁当の包みをほどいてみますとみんな、大きなおにぎりです。私たちも、もちろんおにぎりです。子どもたちのおにぎりは、お母さんの手紙がついています。普段はやんちゃをやって仕方ない六年生の男の子が、そのおかあさんの手紙をジューツと、涙をにじませながら、読んでいます。私の隣には、森木雄二君という子がいましたが、やはり、涙をにじませながら手紙を読んでいます。もう、ほかの子どもたちがおにぎりにかぶりついて、まだ、一生けんめい、手紙を読んでいます。森木君が読み終わった頃には、もうみ

んな食べていましたが、別にあわてるでもなく、ていねいにその手紙を折りたたむと、おまもりのように、たいせつそうに、自分の胸のポケットに、納めました。後で、旅行記を書いているのを読んでみますと、その晩、奈良の旅館に着いて、寝床の中にはいつからもういっぺんおかあさんの手紙を出して読み返し、「おかあちゃん、無事に奈良に着いたで、安心しておくれ。今旅館の寝床の中で、おかあちゃんの手紙を読み返しとるとこや。明日も気をつけてがんばるから、安心しておくれ。おやすみ」とつぶやいて眠りについたことを書いていました。



守本恵美ちゃんという子の旅行記には、「弁当の包みほどいてみたら、おにぎりが出てきた。おかあさんの手紙がついていた。それをよんでいると、このおにぎりひとつひとつに、おかあさんがこんな心をこめてくださったのかと思うと、気がついてみると、私の着ているこの服は、この修学旅行のために、忙しいお母さんが心をこめてぬって下さった服であった。改めて、着ている服を眺めなおして見ると、飾りについていいるシシュウも一針々々、おかあさんの心がこもっているのだとわかった。百二十四人のほかの人たちは、たいてい、町の服屋さんで買った服なのに、わたしのは、心のこもった服なんだと思うと、わたしも、おかあさんになるときは、おかあさんのようなおかあさんになりたいと、思いました」と旅行記に書いていました。



子どもたちは、みんな、(おとなだってやはりそうなんです) こんなふうな、しみじみと、自分の心に、ふれてくれる者を求めています。それなのに、みんな「忙しい」「忙しい」といって(だいたい、あの「忙」という字がいけませんね。心が亡んだという字からしていけないのですが) 心と心の、ふれあい、いのちといのちのであいをそまつにしているのが、私たちではないでしょうか。

「帰敬式(おかみそり)」について

5月14日の随泉寺開基400年の法要に引き続き、帰敬式(おかみそり)を行います。受式申し込みの方は12:30までにお越し下さい。一般の方ももちろんお参り下さい。